

2025 年度河川技術シンポジウムのプログラム(ver. 20250617)

(6月 19 日～20 日 土木学会、オンライン併用)

| | | |
|--|---|---------------------------------------|
| <u>6月 16 日(月)</u> ～ <u>7月 4 日(金)</u> | 発表論文の説明資料に対するオンラインディスカッション | |
| <u>6月 19 日(木)</u> 8:50- 9:50-10:00 10:00-10:30 | 第1日目 (対面・オンライン併用) 受付 開会の挨拶 (河川部会部会長 内田龍彦) 河川技術論文賞 表彰式 | 開催場所： 講堂 + A,CD,EF 会場 |
| 10:30-12:30 | <u>特定課題オーガナイズドセッション1 (OS1)</u> 「水災害多発時代の河川技術のあり方」 オーガナイザー：戸田祐嗣、瀬崎智之、久保宜之 | 講堂 + A,CD,EF 会場 |
| 12:30-13:30 | 昼食 | |
| 13:30-14:00 14:00-14:50 14:55-15:45 15:50-16:40 | ポスター設置 <u>ポスターセッション(PS1)・オンラインディスカッション</u> <u>ポスターセッション(PS2)・オンラインディスカッション</u> <u>ポスターセッション(PS3)・オンラインディスカッション</u> | 対面：講堂 + CD,EF 会場 オンライン： A 会場 |
| 16:40-17:00 | ポスター撤去 (17:00 迄) | |
| 17:30-20:00 | 交流会 | Patia 四ツ谷 |
| <u>6月 20 日(金)</u> | 第2日目 (対面・オンライン併用) | |
| 9:00-11:00 | <u>特定課題オーガナイズドセッション2 (OS2)</u> 「変化する時代の河道管理 - 順応的管理による持続可能な治水と環境の両立を目指して」 オーガナイザー：堀江克也、生田浩一、新屋孝文、三浦 心、溝口敦子 | 講堂 + A,CD,EF 会場 |
| 11:10-12:50 | <u>オーラルセッション1</u> | 講堂 + A,CD,EF 会場 |
| 12:50-13:50 | 昼食 | |
| 13:50-15:30 | <u>オーラルセッション2</u> | 講堂 + A,CD,EF 会場 |
| 15:40-17:40 | <u>オーラルセッション3</u> | 講堂 + A,CD,EF 会場 |
| 17:50-18:10 | 閉会式 (河川部会副部会長 堀江克也) 優秀発表者賞の発表 | 講堂 + A,CD,EF 会場 |

シンポジウムの会場(土木学会 2F)



詳細プログラム

※座長は河川部会員が担当しています。

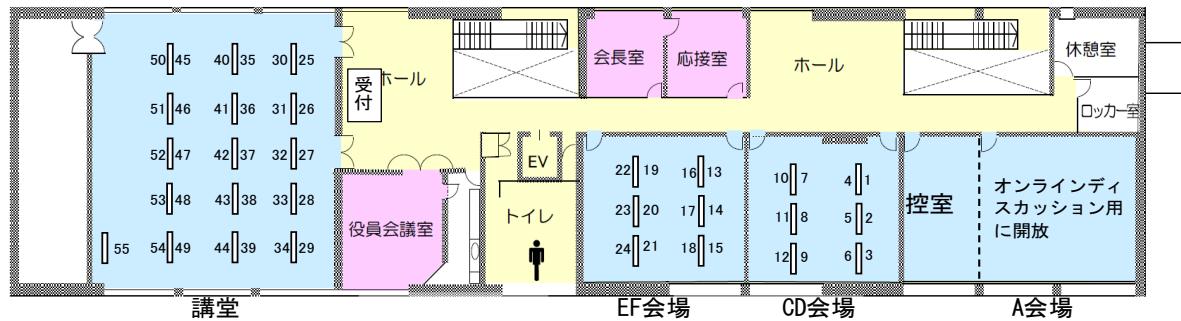
一日目（6月19日(木)

| 開始 | 終了 | 講堂 | A会場 | CD会場 | EF会場 |
|-------|-------|---|-------------------|---|---|
| 9:50 | 10:00 | メイン会場 開会の挨拶 司会(内田) | | | |
| 10:00 | 10:30 | メイン会場 河川技術論文賞 表彰式 司会(瀬崎) | サブ会場 | サブ会場 | サブ会場 |
| 10:30 | 12:30 | OS1(メイン会場) オーガナイザー：戸田、瀬崎、久保 | OS 1(サブ会場) | OS 1(サブ会場) | OS 1(サブ会場) |
| 12:30 | 13:30 | | | 昼食 | |
| 13:30 | 14:00 | ポスター設置 | | ポスター設置 | |
| 14:00 | 16:40 | PS1:14:00～14:50 PS2:14:55～15:45 PS3:15:50～16:40 | オンラインディスカッション用に開放 | PS1:14:00～14:50 PS2:14:55～15:45 PS3:15:50～16:40 | PS1:14:00～14:50 PS2:14:55～15:45 PS3:15:50～16:40 |
| 16:40 | 17:00 | ポスター撤去 | | | ポスター撤去 |

二日目（6月20日(金)

| 開始 | 終了 | 講堂 | A会場 | CD会場 | EF会場 |
|-------|-------|--------------------------------------|-----------------------------------|---|-------------------------------------|
| 9:00 | 11:00 | OS2(メイン会場) オーガナイザー：溝口、堀江、新屋、三浦、生田 | OS2(サブ会場) | OS2(サブ会場) | OS2(サブ会場) |
| 11:00 | 11:10 | | | 休憩 | |
| 11:10 | 12:50 | S1-1：洪水流の水理 (座長：川池) | S1-2:河川計画、超過洪水、洪水リスク(1) (座長：碇) | S1-3:河川計画、超過洪水、洪水リスク(2) (座長：原田) | S1-4:河川環境・河川生態 (1) (座長：尾花) |
| 12:50 | 13:50 | | | 昼食 | |
| 13:50 | 15:30 | S2-1:河道の維持管理・樹林化 (座長：知花) | S2-2:河川堤防・構造物 (座長：本田) | S2-3:流域治水、上下流問題、流域対策、水循環、地下水 (座長：近者) | S2-4:河川環境・河川生態 (2) (座長：小林) |
| 15:30 | 15:40 | | | 休憩 | |
| 15:40 | 17:40 | S3-1:河床変動、ダムの計画・管理 (座長：太田) | S3-2:河川堤防 (座長：田端) | S3-3:降雨流出・洪水・氾濫予測、避難 (座長：呉) | S3-4:観測技術・計測技術・リモートセンシング (座長：松田) |
| 17:40 | 17:50 | | | 休憩 | |
| 17:50 | 18:10 | メイン会場 閉会式 司会(堀江) | サブ会場 | サブ会場 | サブ会場 |

PSのポスター配置



ポスターセッション(6/19(木) 14:00~16:40)のプログラム

| ポスターNo. | タイトル | 発表者 | セッション | 会場 |
|---------|---|-------|-------|------|
| 1 | 動力学的モデルに基づく洪水時における避難開始人数の時間分布に及ぼす地域特性係数の影響に関する考察 | 武内慶了 | PS1 | CD会場 |
| 2 | 逆流防止操作が必要となるタイミングの前後ににおける支川合流部の水門付近の流向・流速分布 | 安田香郎 | PS2 | |
| 3 | ハリエンジュ(<i>Robinia pseudoacacia L.</i>)の根萌芽抑制を目的とした各種工法の比較—転圧による形成層破壊の可能性について— | 大石哲也 | PS3 | |
| 4 | 巨標を有する河道における線格子法とふるい分け法を併用した河床材料粒径分布の把握手法 | 渡邊康玄 | PS1 | |
| 5 | 三次元データ・AI画像解析を活用した樹木管理の高度化 | 佐々木海人 | PS2 | |
| 6 | 礫床網状河川における護岸被害危険度評価 | 松尾大地 | PS3 | |
| 7 | 生物多様性プロジェクトの現状と河川管理への活用可能性について | 中村圭吾 | PS1 | |
| 8 | 洪水波形を適切に表現するための地上雨量計の最適配置の検討 | 都築航太 | PS2 | |
| 9 | 都市郊外地域を対象とした氾濫域の貯留施設による浸水低減効果の数値的検討 | 田代喬 | PS3 | |
| 10 | 曹場における乗越堤の機能についての検討 | 平川隆一 | PS1 | |
| 11 | 噴砂動態およびハイビンク進展挙動に影響を及ぼす矢板条件の評価 | 近藤知輝 | PS2 | |
| 12 | 平成23年7月新潟・福島豪雨における五十嵐川の堤防・河道被害機構 -平成16年7月新潟・福島豪雨と比較して- | 佐藤浩輝 | PS3 | |
| 13 | 降雨波形の特性を考慮した鞍部川流域における複合治水対策の定量的評価 | 宅野智紀 | PS1 | EF会場 |
| 14 | 表面流速の時間変化と水位・流量の関係に着目したSTIV解析における風の影響評価 | 西尾和馬 | PS2 | |
| 15 | 氾濫シナリオ別水害ハザード指標分布を用いた現況ハザード分析による地域の脆弱性評価手法 | 大野純唯 | PS3 | |
| 16 | 模型大型堤防における降雨時の水収支解析に基づく堤体内の水の貯留及び流出過程の検討 | 白石芳樹 | PS1 | |
| 17 | ワニコイン浸水センサ実証実験の現状と持続的運用に向けた自動販売機搭載型浸水センサの開発 | 小山直紀 | PS2 | |
| 18 | 足羽川流域における非構造格子二次元不定流モデルを用いた水田の洪水貯留機能の評価 | 西野駿治 | PS3 | |
| 19 | 横断勾配を有する高水敷において低水路際植生の高さと低水路・高水敷水深比や水平溝の有無が土砂堆積に与える影響 | 久澄伸太郎 | PS1 | |
| 20 | 利根川流域を対象としたこれまでの研究動向レビュー | 川村勇斗 | PS2 | |
| 21 | マテリアルフロー分析を用いたマイクロブロック河川流下モデルの口荒川流域への適用 | 大貫駿太 | PS3 | |
| 22 | 土砂バイアストンネル内の土砂流下の特徴及び流況把握に資する水理実験・数値計算 | 猪股広典 | PS1 | |
| 23 | 2024年9月奥能登豪雨を対象とした広域における降雨流出・洪水氾濫解析 | 中尾朔也 | PS2 | |
| 24 | 光学衛星データの異なる空間分解能が土砂流出範囲推定手法の抽出率に与える影響 | 秋田寛己 | PS3 | |
| 25 | ADCP搭載型ラジコンボートによる低水流量観測技術の開発 | 橋田隆史 | PS1 | 講堂 |
| 26 | 岩盤内地下水の挙動を考慮した表層崩壊危険度予測モデルの開発 | 梶 昭仁 | PS2 | |
| 27 | 河川事業におけるデータの有機的連携による生産プロセスの効率化・高度化 | 藤原圭哉 | PS3 | |
| 28 | 堤防の越流侵食における堤体材料および締固め度の影響について | 牧川星朗 | PS1 | |
| 29 | ALBの水面点群データを活用した水理量推定による潮流判定手法の改良 | 寺島大貴 | PS2 | |
| 30 | 表面被覆型対策工が設置された堤防裏法部の流れと堤体侵食を評価する解析手法の開発と堤体表面に形成された初期侵食が及ぼす影響評価 | 後藤岳久 | PS3 | |
| 31 | CNNとPINNsを用いた中小河川における洪水時水位予測の実用性的検討 | 安田晃昭 | PS1 | |
| 32 | 六角川高水敷に設置された湛水池群による洪水水位低減効果の評価 | 後藤勝洋 | PS2 | |
| 33 | 千代田実験水路における細粒分を多く含む堤体材料を用いた横断堤越水破堤実験 | 島田友典 | PS3 | |
| 34 | IRICOを活用した汽水環境評価ツールの開発 | 村上純一 | PS1 | |
| 35 | 河川氾濫時に形成される波状水面を伴う流況を考慮した水工構造物設計上の留意点 | 後藤浩 | PS2 | |
| 36 | 将来洪水流量推計における気候予測情報の空間分布の影響に関する検討 | 阿部紫織 | PS3 | |
| 37 | 三次元点群データ 平面二次元流況解析モデルを活用した河道計画の高度化 | 吉武央氣 | PS1 | |
| 38 | 滋賀県犬上川中下流域における熱赤外画像および二次元不定流解析を用いた湧水性希少種のハビタット保全計画の検討 | 泉野 珠穂 | PS2 | |
| 39 | RNN将来予測と粒子フィルタのハイブリッド型データ同化による水位予測精度向上の試み | 松田健介 | PS3 | |
| 40 | 県管理河川の集水域・氾濫特性を踏まえた流域治水施策の整理と計画導入プロセス | 原田守啓 | PS1 | |
| 41 | 平均成分加速法を用いた水流解析モデルの粗度係数調整の効率化に関する研究 | 松下晃生 | PS2 | |
| 42 | 河川における群落クラスタ構築とその成立要因-長良川中流域を対象とした植生予測・評価の試み- | 宮脇秀成 | PS3 | |
| 43 | 橋脚底部の洗掘に及ぼすフーチングの影響に関する基礎的実験 | 白井秀和 | PS1 | |
| 44 | 環境DNAメタバーコーディングにおけるPCR阻害対策の手法比較 | 釣健司 | PS2 | |
| 45 | UAV連続撮影静止画データによる河川構造物の自動抽出に関する検討 | 藤原麻結 | PS3 | |
| 46 | 流域治水計画検討のための降雨流出氾濫(RRI)モデルと非構造格子二次元不定流(UNST-2D)モデルの連成解析法の検討 | 山村孝輝 | PS1 | |
| 47 | 河川氾濫による農地土壤洗浄の現象解明に向けた事例分析と水理実験 | 神原柚乃 | PS2 | |
| 48 | 全国版d4PDダウンスケーリングデータのバイアス補正データの開発と公開 | 西村宗倫 | PS3 | |
| 49 | 河川水位・監視カメラ画像を用いた水位履歴画像生成手法と水位推定 | 禾木陸 | PS1 | |
| 50 | 谷津の多面的機能に対する支払意思額と個人属性が及ぼす影響分析 | 武田佳明 | PS2 | |
| 51 | Velocity dipを表現できる新しい新しい鉛直流速分布モデルの提案 | 井上敬太 | PS3 | |
| 52 | 連続する固定堰の撤去が周辺河床の変動に及ぼす影響 | 難波媛香 | PS1 | |
| 53 | 露堤周辺の流況分析時における河道域・氾濫域の二次元一体解析の有効性 | 瀬健太郎 | PS2 | |
| 54 | 蛇行河川における氾濫戻り流れの流量が河道内流況に与える影響に関する基礎的実験 | 友野直樹 | PS3 | |
| 55 | ダム流域を対象としたアンサンブル降雨予測の予測時間帯別精度評価 | 山路昭彦 | PS1 | |

オーラルセッション（6/20(金) 11:10～17:40）のプログラム

※座長は河川部会員が担当しています。

| セッション 1 6月20(金) 11:10～12:50 | | | |
|---|-------|-------|-------|
| S1-1：洪水流の水理（座長：川池） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| 画像解析と準三次元流況解析を活用した安倍川における令和4年台風第15号の流量推定 | 小川絵莉子 | 対面 | 97 |
| 逆流防止操作が必要となるタイミングの前後における支川合流部の水門付近の流向・流速分布 | 安田善郎 | 対面 | 103 |
| 平成23年7月新潟・福島豪雨における五十嵐川の堤防・河道被害機構-平成16年7月新潟・福島豪雨と比較して- | 佐藤海輝 | 対面 | 109 |
| 河道計画・河道設計における高次元流況解析技術の開発・実装の好循環形成のための基盤整備 | 田端幸輔 | 対面 | 133 |
| iRIC-GELATOによる豊平川の床止めと魚道を含む流れと魚の運動追跡シミュレーション | 濱木道大 | 対面 | 91 |
| S1-2: 河川計画、超過洪水、洪水リスク(1)（座長：碇） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| 衛星・空撮画像を活用した令和2年7月球磨川豪雨による人吉市の被害建物の分析 | 中太智大 | 対面 | 307 |
| 関東平野北西縁断層帯で想定される地震における河道閉塞リスクの確率的予測 | 小田竜生 | オンライン | 313 |
| 河川氾濫による農地土壤流失の現象解明に向けた事例分析と水理実験 | 神原袖乃 | 対面 | 289 |
| 建物配置と粒径が洪水氾濫時の土砂堆積に与える影響に関する実験的研究 | 脇谷新 | 対面 | 295 |
| S1-3: 河川計画、超過洪水、洪水リスク(2)（座長：原田） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| 三次元点群データ・平面二次元流況解析モデルを活用した河道計画の高度化 | 吉武央氣 | 対面 | 319 |
| 気候変動を踏まえた大阪府域における降雨分析について | 福岡将士 | 対面 | 325 |
| 気候変動下における多様な降雨時の時空間分布パターンの数値化手法の検討 | 山地秀幸 | 対面 | 337 |
| 寒冷地河川における解氷時期推定手法の適用性検討 | 吉川泰弘 | 対面 | 343 |
| 将来河川流量の推計に向けたd4PDFバイアス補正手法の空間補間 | 渡部哲史 | 対面 | 349 |
| S1-4: 河川環境・河川生態(1)（座長：尾花） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| セグメント区分及び種生タイプ分類・変遷を考慮した河川植生の保全・創出戦略の検討 | 鈴木敏弘 | 対面 | 1 |
| 環境DNAの経年モニタリングによる大規模水出からの魚類相回復過程についての検討 | 滝山路人 | 対面 | 7 |
| 魚の休息場所の確保に適した水制およびオーバーハンプの設置手法について | 吉田瑞矢 | オンライン | 13 |
| 砂州の地形変化とマイクロプラスチックの空間分布 | 松村 輝馬 | 対面 | 25 |
| 河川物理環境特性を考慮した全国かわまちづくりの利活用分類の試み | 坂本貴啓 | オンライン | 31 |
| セッション 2 6月20(金) 13:50～15:30 | | | |
| S2-1: 河道の維持管理・樹林化（座長：知花） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| ハリエンジュ (<i>Robinia pseudoacacia</i>) の根萌芽抑制を目的とした各種工法の比較 一軒庄による形成層破壊の可能性についてー | 大石哲也 | 対面 | 265 |
| 流下能力への樹木群の影響評価に資するUAVレーザー計測による三次元点群の活用手法の検討 | 末永達 | オンライン | 271 |
| 六角川高水敷に設置された湛水池群による洪水水位低減効果の評価 | 後藤勝洋 | 対面 | 277 |
| 横断勾配を有する高水敷において低水路際植生の高さと低水路・高水敷水深比や水平渦の有無が土砂堆積に与える影響 | 久澄伸太郎 | 対面 | 283 |
| 河床変動と植生消長の連成による河道内ハビタットの中長期解析 | 周月霞 | 対面 | 85 |
| S2-2: 河川堤防・構造物（座長：本田） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| 堤防の越流侵食における堤体材料および締固め度の影響について | 牧川星朗 | 対面 | 235 |
| 没水型ペーン工が橋脚周りの流れ場に与える影響について | 大本照憲 | 対面 | 247 |
| 鉄道橋りょうを対象とした側方侵食危険度評価方法の基礎的検討 | 石井秀憲 | 対面 | 253 |
| 橋脚底部の洗堀に及ぼすフーチングの影響に関する基礎的実験 | 白井秀和 | 対面 | 259 |
| 安倍川巨石付き盛土砂州のモニタリング評価 | 富田達 | 対面 | 199 |
| S2-3: 流域治水、上下流問題、流域対策、水循環、地下水（座長：近者） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| 県管理河川の集水域・氾濫特性を踏まえた流域治水施策の整理と計画導入プロセス | 原田守啓 | 対面 | 433 |
| 不確実性への対応による流域治水機能的貢献向上-太田川を事例に- | 尾澤卓思 | 対面 | 481 |
| 小河川に残存する露堤及び周辺耕作放棄水田を活用したピーク流量低減手法に関する基礎的検討 | 今井洋太 | オンライン | 487 |
| 流域治水対策立案支援のための流域データ処理及び可視化手法の開発 | 諸田岡良俊 | 対面 | 577 |
| 片側が山付きの河道における超過洪水処理に関する基礎的検討 | 河内敦 | 対面 | 301 |
| S2-4: 河川環境・河川生態(2)（座長：小林） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| 静岡県柿田川における在来水生植物の生育ボテンシャルマップを用いた自然再生の検討と実施 | 伊藤岳 | 対面 | 55 |
| 潜孔および切欠きを有する階段式魚道における二ホンウナギの遡上経路選択 | 鬼東幸樹 | オンライン | 61 |
| 生物多様性ケージットの現状と河川管理への活用可能性について | 中村圭吾 | 対面 | 67 |
| マテリアルフロー分析を用いたマイクロプラスチック河川流下モードの口荒川流域への適用 | 大貫駿太 | 対面 | 73 |
| 環境DNA分析を用いた河道内氾濫原の魚類群集評価 | 宮園誠二 | 対面 | 79 |
| セッション 3 6月20(金) 15:40～17:40 | | | |
| S3-1: 河床変動、ダムの計画・管理（座長：田代） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| 流砂環境の再生を目指したダムからの土砂還元の条件の検討手法 | 西 広樹 | オンライン | 145 |
| 砂州波高が浮遊砂の堆積特性へ与える影響に関する実験的検討 | 新妻友太 | オンライン | 151 |
| 礫床網状河川における護岸被災危険度評価 | 松尾大地 | 対面 | 157 |
| PKW (Piano Key Weirs) の国内適用へ向けた水理特性に関する分析と今後の課題 | 竹崎奏詠 | 対面 | 163 |
| 浦上ダム再生における貯水池掘削の技術的特徴と実施状況 | 橋口茂 | 対面 | 175 |
| 土砂バイパストンネル内の土砂流下の特徴及び流況把握に資する水理実験・数値計算 | 猪股広典 | 対面 | 181 |
| S3-2: 河川堤防（座長：田端） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| 越流時の透水性表面被覆工下に位置する堤体の安定性に関する解析的検討 | 高橋和真 | 対面 | 187 |
| 表面被覆型対策工が設置された堤防裏法部の流れと堤体侵食を評価する解析手法の開発と堤体表面に形成された初期侵食が及ぼす | 後藤岳久 | 対面 | 193 |
| 模型大型堤防における降雨時の水収支解析に基づく堤体内の水の貯留及び流出過程の検討 | 白石 芳樹 | 対面 | 241 |
| 安八破堤時の変状推移整理と現象説明ポイント考察 | 諏訪義雄 | オンライン | 205 |
| FT図を用いた粘り強い河川堤防の信頼性向上手法に関する研究 | 三好朋宏 | 対面 | 211 |
| かご工を事例とした越水に対する性能の信頼性向上に関する実験的研究 | 河野努 | 対面 | 223 |
| S3-3: 降雨流出・洪水・氾濫予測・避難（座長：具） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| 氾濫発生地点の特定精度の違いが浸水域の予測精度に及ぼす影響に関する研究 | 久保英二郎 | 対面 | 355 |
| 一次元不定流解析へのPINNs適用による多地点水位データ同化手法の検討 | 渡辺健 | 対面 | 379 |
| 令和5年秋田豪雨による五城目町の浸水被害と高齢者施設における法人間連携の有効性 | 金井純子 | 対面 | 391 |
| 荒川中流域に対するRFIモデルを用いたリアルタイム河川水位予測の現場試行 | 木村圭佑 | 対面 | 397 |
| 降雨分布を用いたニューラルネットワークによる水位予測手法の実務適用に向けた精度検証 | 大野剛 | 対面 | 403 |
| 短時間大雨を対象とした水位予測における降水予報誤差の影響 | 飯村浩太郎 | 対面 | 409 |
| S3-4: 観測技術・計測技術・リモートセンシング（座長：松田） | 発表者 | 発表形式 | ページ番号 |
| 表面流速の時間変化と水位・流量の関係に着目したSTIV解析における風の影響評価 | 西尾和馬 | 対面 | 505 |
| XバンドMPレーダ雨量計の冬季観測精度 | 越智喜善 | 対面 | 511 |
| 巨礫を有する河道における線格子法とふるい分け法を併用した河床材料粒径分布の把握手法 | 渡邊康玄 | 対面 | 535 |
| 礫床河川における圧力計を用いた新たな土砂堆積高計測装置の開発と現地検証 | 野路佑人 | オンライン | 553 |
| 河川監視カメラ画像を用いた低コストかつ汎用的な水面積知システムの開発 | 能登谷祐一 | 対面 | 559 |

OS1

日時：令和7年6月19日（木）10:30～12:30（概ね120分）

場所：土木学会講堂（四ツ谷）

テーマ：水災害多発時代の河川技術のあり方

オーガナイザー：戸田祐嗣（総合司会）、瀬崎智之、久保宣之

趣旨：

2024年、土木学会では「これから流域治水の進め方 『流域全体における水収支の把握と領域の垣根を越えた協働で進める流域治水～流域内の水量バランスを全住民が知り、考え、行動するために～』」を提言した。国土交通省では、既に顕在化しつつある気候変動への適応やカーボンニュートラル、ネイチャーポジティブの実現など様々な社会情勢を踏まえ、水管理・国土保全行政を流域治水から流域総合水管理への展開を進めている。

そして、頻発・激甚化する水災害や科学技術の進展に伴い、河川計画や河川構造物の設計・施工は転換期を迎えており、当OSでは、改めて河川技術のあり方を見つめ直す。

学からは福岡捷二教授から招待論文を中心とした河川技術のこれまでとこれからについて発表いただく。官からは計画、設計・施工、管理、技術研究開発それぞれの観点から、今後目指していくこと、その中で河川技術に求められるものを意見発表し、パネルディスカッションにより「水災害多発時代の河川技術のあり方」について参加者を含めて理解を深める。

1. 開会・趣旨説明

2. 意見発表

学（40分）：福岡捷二（中央大学研究開発機構教授）

「時代の要請に応える河川技術のこれまでとこれから」

官（45分）：小澤盛生（国土交通省水管理・国土保全局河川計画課河川計画調整室長）

「水災害による死者数等を一刻も早く減らすための技術、研究の実装の必要性」

石田和也（国土交通省水管理・国土保全局治水課流域減災推進室長）

「河道と堤防の構造・設計の実際」

瀬崎智之（国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室長）

「河川技術の研究開発リクワイヤメントの明確化」

3. パネルディスカッション

「水災害多発時代の河川技術のあり方」

4. 閉会

0S2

日時：令和7年6月20日（金）9:00～11:00（概ね120分）

場所：土木学会講堂（四ツ谷）

テーマ：変化する時代の河道管理 -順応的管理による持続可能な治水と環境の両立を目指して-

オーガナイザー：堀江克也、生田浩一、新屋孝文、三浦 心、溝口敦子

1. 開会・趣旨説明

近年、災害の激甚化・頻発化や河川管理施設の老朽化が顕在化する一方で、人口減少、働き方改革、さらには河川環境への関心の高まりといった社会的背景の変化により、河川行政や現場の管理体制にも新たな変革が求められています。こうした複合的な課題のもと、従来の一律的な河道管理では対応しきれない場面が増えています。

このような時代においては、河川の物理環境が常に変化し続けることを前提に、柔軟かつ効率的な管理手法がこれまで以上に求められます。とりわけ、治水と環境の調和を目指す川づくりでは、「仮説に基づく整備」と「継続的なモニタリング」を両立させ、状況に応じて施策を見直していく順応的管理（adaptive management）の重要性が高まっています。

本セッションでは、これまでの順応的な河道管理の枠組みをさらに発展させるために、各段階で求められる知見や、新たな技術・データ活用の可能性を探ります。また、治水・環境の両立のための合意形成のあり方にも目を向けながら、今後の河道管理の方向性、特に現場からの実践知、研究成果、技術革新を踏まえた次世代の河道管理の姿を議論します。

2. 話題提供（60分）

新屋 孝文(国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 河川環境調整官)

「河道管理の現状と課題」

佐々木 海人 ((株)建設技術研究所)

「三次元データ・AI 画像解析を活用した樹木管理の高度化」

周 月霞 (名古屋大学助教)

「河床変動と植生消長の連成による河道内ハビタットの中長期解析」

瀧 健太郎 (滋賀県立大学教授)

「滋賀県犬上川中下流部における熱赤外画像及び二次元不定流解析を用いた湧水性希少魚種のハビタット保全計画の検討」

3. 論点整理・総合討議

4. 閉会